

提出第4号

株式会社テンキテンキ村の経営状況を説明する書類の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、株式会社テンキテンキ村の経営状況を説明する書類を別紙のとおり提出する。

令和7年9月4日提出

京丹後市長 中山 泰

決 算 報 告 書

第 33 期

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

株式会社 テンキテンキ村

京都府京丹後市丹後町竹野 313 番地の 1

第1号議案 第33期営業報告の件

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

1 現況

(1) 事業の経過及びその成果

5%の賃上げ率。バブル期の最高値を35年ぶりに更新した株価。オーバーツーリズムが唱えられるほど好調な訪日客。一方で、人手不足、物価高騰による消費低迷などの要因があったものの、我が国経済は持ち直しています。

このような環境の中で、当社が運営する三つの部門は、次のような取り組みを開きました。

主力事業である道の駅は、「立ち寄りたい施設」づくりを目標にして、不快感を与えない環境の構築、分かり易い・使い易い施設とサービスの提供、ここにしかないモノ・ここでしかできないことをより安価で提供することを心掛けました。例えば、地域の日常的な食材であるワカメを使用した「丹後のワカメうどん」という商品を開発し、情報発信に努めたところ、「長寿の町」→「京丹後市」→「ワカメ」→「食べる」→「健康長寿」と構成される物語にも後押しされて、一躍人気商品に成長しました。このような工夫に加えて、道の駅トイレが明るく清潔で近代的になったこと、天候に恵まれたことなどが重なって、コロナ前の利用者数を回復することができました。

碇高原ステーキハウスでは、地元酪農家と提携して年に3~5頭しか出荷しない貴重な和牛を使ったステーキを提供し、他府県からもりピーターを獲得するほどの評価を得る商品とすることができました。しかしながら、適切な情報発信の不足もあって、コロナ前の利用者数への回復はできませんでした。

キャンプ場運営は、設備の衛生管理・丁寧な対応・安全対策などに気を配り、自然を満喫したい利用者に対応してきましたが、コロナ期をピークとして反転した減少傾向に歯止めがかけられませんでした。

その結果今期は、好調な道の駅部門に牽引されて、利用者数127,021人（前期比117%）売上収入144,681千円（前期比114%）、当期利益4,357千円（前期△213千円）と、良好な業績を残すことができました。

事業別	売上高	施設利用者数
道の駅運営事業	117,067千円	115,785名
碇高原ステーキハウス運営事業	21,116千円	4,368名
キャンプ場運営事業	6,498千円	6,868名

(2) 設備投資等の状況

当該年度において実施した設備投資等は、次の通りであります。なお、資金については自己資金を充当しました。

- * 本社 ホームページのリニューアル。エアコンの更新（応接室）。
- * 道の駅 クロスの張替。壁面ガラスの洗浄。朱柱の化粧直し。エアコン室外機の修理。チルド冷蔵庫の修理。椅子及びテーブルの入替。券売機プログラムアップデート。照明器具及びカーテンの取替。食事処看板の設置。調理台及び返却台の更新。冷凍ストッカーの更新。厨房内照明器具更新。厨房内側溝整備。建物周りの整地。
- * ステーキハウス 入口手摺修理。厨房照明器具更新。グリストラップ更新。
- * オートキャンプ場 脱衣所の照明器具更新。

【参考】京丹後市事業

- * 道の駅 エアコンの更新（事務室、休憩室）。自動ドアの更新（東側風除室）。ガンダムマンホール設置（エントランス）。
- * ステーキハウス 外周手摺。外壁。

(3) 対処すべき課題

利用者に喜んでもらい、「また来よう」「友達に紹介したい」と思ってもらうため、引き続き次のような課題に取り組む必要が有ります。

特色ある商品の提供

「ここでしか」食べられない・買えない・できない体験の商品づくり。

情報の集積と発信

情報収集及び発信に係る技術力の向上。

企業の体力強化

資本の蓄積と人材確保。

(4) 財産及び損益の状況の推移

区分	第30期 令和3年度	第31期 令和4年度	第32期 令和5年度	第33期 (当期)
利用者数	80,329名	120,012名	108,376名	127,021名
売上高	88,428千円	132,588千円	126,809千円	144,681千円
当期純利益	7,569千円	369千円	△212千円	4,357千円
1株当たり当期純利益	15,769円	769円	△442円	9,078円
純資産	21,207千円	21,577千円	21,365千円	25,722千円

(5) 主要な事業内容

事業	主要商品
道の駅運営管理事業	土産物（菓子・加工食品・加工製品） 食事（定食・丼・うどん・そば） 喫茶（コーヒー・ソフトクリーム）
碇高原ステーキハウス運営管理事業	ステーキ
オートキャンプ場運営管理事業	キャンプ区画

(6) 従業員の状況

従業員数	前期末比増減数
16名 (うち男性4名、女性12名) (うち社員6名、パート8名、季節2名)	1名減 (女性1名) (季節1名)

2. 会社の株式に関する事項

(1) 発行済株式の総数 480株

(2) 株主数 11団体

株主名	持株数	持株比率
京丹後市	432株	90.0%
京丹後市商工会	10株	2.1%
京都農業協同組合	10株	2.1%
京都府漁業協同組合	8株	1.7%
丹後地区森林組合	8株	1.7%
(一社) 京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部丹後町支部	6株	1.3%
間人商店連盟	2株	0.4%
間人区	1株	0.2%
竹野連合区	1株	0.2%
上宇川連合区	1株	0.2%
下宇川連合区	1株	0.2%

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等

氏名	地位及び担当	重要な兼職の状況
中江英雄	取締役社長（代表取締役）	
蒲田幸造	取締役副社長（代表取締役）	間人区長
小倉伸	取締役	井上区長
中江謙介	取締役	鉄工業経営
長門弘之	取締役	食品製造業経営
高橋尚義	監査役	京丹後市商工観光部長
小谷和彦	監査役	竹野連合区長

(2) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の額

取締役 5名 2,700千円

監査役 1名 60千円

4、計算書類

(1) 貸借対照表 2025年3月31日現在

科目	金額(円)	科目	金額(円)
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	31,814,460	流動負債	13,147,550
1 現金及び預金	22,656,966	1 買掛金	4,479,838
2 売掛金	2,245,856	2 未払金	4,701,985
3 商品	2,340,670	3 未払法人税等	206,000
4 原材料	1,134,170	4 預り金	18,253
5 未収金	3,436,598	5 預り社会保険金	457,926
6 仮払金	200	6 預り雇用保険金	45,648
固定資産	7,055,656	7 預り住民税	60,100
有形固定資産	5,743,180	8 未払消費税	3,177,800
1 車両運搬具	1,456,400	負債合計	13,147,550
2 工具器具備品	17,031,893	(純資産の部)	
3 減価償却累計額	△12,745,113	株主資本	25,722,566
無形固定資産	1,312,476	資本金	48,000,000
1 ソフトウエア	1,237,492	利益剰余金	△22,277,434
2 電話加入権	74,984	1 利益準備金	3,000,000
		2 その他利益剰余金	△25,277,434
資産合計	38,870,116	負債純資産合計	38,870,116

(2) 損益計算書 2024年4月1日から2025年3月31日まで

科目	金額(円)	
I 営業収益		
売上高		
1 飲食料売上高	51,668,740	
2 土産料売上高	63,013,734	
3 販売手数料売上	2,382,624	
4 自販機売上高	1,070,209	
5 使用料売上高	6,342,000	
6 その他売上高	20,116,000	
7 雑収売上高	<u>87,715</u>	144,681,022
II 営業費用		
売上原価		
1 期首商品棚卸高	2,740,097	
2 飲食料仕入高	20,107,108	
3 土産料仕入高	40,847,940	
4 その他仕入高	<u>118,800</u>	
合 計	63,813,945	
4 期末商品棚卸高	<u>3,474,840</u>	60,339,105
売上総利益		84,341,917
販売費及び一般管理費		<u>△86,984,674</u>
営業利益		△2,642,757
III 営業外収益		
1 受取利息	5,817	
2 受託料	5,441,228	
3 雑収入	<u>1,970,843</u>	7,417,888
IV 営業外費用		
1 雑損失	<u>210,533</u>	210,533
経常利益		<u>4,564,598</u>
税引前当期純利益		4,564,598
法人税等		<u>206,884</u>
当期純利益		<u>4,357,714</u>

販売費及び一般管理費明細

2024年4月1日から2025年3月31日まで

科目	金額（円）
1 役員報酬	2,760,000
2 給与手当	16,787,677
3 賞与	2,023,675
4 雑給	20,603,852
5 法定福利費	4,761,155
6 福利厚生費	958,828
7 広告宣伝費	488,078
8 旅費交通費	1,665,618
9 接待交際費	16,000
10 車両費	84,480
11 通信費	342,501
12 水道光熱費	7,667,617
13 租税公課	79,700
14 消耗品費	2,286,534
15 修繕費	2,672,252
16 保険料	153,790
17 支払手数料	3,762,289
18 減価償却費	2,899,333
19 リース料	876,513
20 装備衛生費	4,009,623
21 燃料費	224,180
22 負担金	381,375
23 施設管理料	4,734,522
24 会議費	56,600
25 販売促進費	161,250
26 貸借料	185,000
27 外注費	1,114,592
28 雑費	104,840
29 消費税等	5,122,800 86,984,674

(3) 株主資本等変動計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：円)

株主資本

資本金	当期首残高及び当期末残高	<u>48,000,000</u>
利益剰余金		
利益準備金	当期首残高及び当期末残高	<u>3,000,000</u>
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	当期首残高	△29,635,148
	当期変動額	<u>4,357,714</u>
	当期末残高	<u>△25,277,434</u>
利益剰余金合計	当期首残高	△26,635,148
	当期変動額	<u>4,357,714</u>
	当期末残高	<u>△22,277,434</u>
株主資本合計	当期首残高	21,364,852
	当期変動額	<u>4,357,714</u>
	当期末残高	<u>25,722,566</u>
純資産合計	期首残高	21,364,852
	当期変動額	<u>4,357,714</u>
	当期末残高	<u>25,722,566</u>

(4) 個別注記表 2024年4月1日から2025年3月31日まで

1. この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。

2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①たな卸資産の評価基準及び評価方法

・・・個別法による原価法

・・・個別法による原価法に基づく低価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産 ・・ 定額法

②無形固定資産 ・・ 定額法

(3) 有形固定資産の減価償却累計額 12,745,113円

減価償却は間接法にて計上

(4) 収益及び費用の計上基準

収益は実現主義、費用は発生主義

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込み方式により処理しています。

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項。

発行済株式

普通株式（発行済株式）

前期末株式数（発行済普通株式） 480株

当期増加株式数（発行済普通株式） 0株

当期減少株式数（発行済普通株式） 0株

当期末株式数（発行済普通株式） 480株

4. 1株当たりの情報に関する注記

(1) 1株当たりの純資産額 53,588円67銭

(2) 1株当たりの当期純利益金額又は当期純損失金額 9,078円57銭

監査報告書

2025年5月20日

株式会社テンキテンキ村

取締役会 御中

監査役 高橋尚義



監査役 小谷和彦



私たち監査役は、2024年4月1日から2025年3月31日までの第33期事業年度の3月31日現在の取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監査役は、取締役及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めると共に、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社および主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその付属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその付属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

（1）事業報告書の監査結果

- 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（2）計算書類及びその付属明細書の監査結果

計算書類及びその付属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

第34期事業計画

(2025年4月1日～2026年3月31日)

株式会社テンキテンキ村

1 基本方針

JTB旅行動向見通し「2025年」によると、雇用や給与は次第に良化し、暮らし向きも穏やかに改善が期待され、旅行の追い風になる見込み、と発表されています。ただし、予測不能の世界情勢からの影響は、未知数ですが。

他方、全国に1230設置されている道の駅の役割は、「休憩場所（第1ステージ）」から「魅力的な場所（第2ステージ）」へ、そして「地方創生・観光を加速する拠点（第3ステージ）」へと移り変わっています。

そのような状況の中で、当駅については、第3ステージへ進むため、関係機関との協力のもとで、戦略的に地域を巻き込んでいくエンジンとなる「仕掛け」を模索していく所存です。

碇高原ステーキハウスは、牧場に隣接して風光明媚な環境に立地していることや高品質の肉を廉価で提供していることなどの情報発信に努め、誘客を進めています。

キャンプ事業は、施設の衛生管理・丁寧な対応・安全管理などに留意し、利用者にまた来ようと思ってもらえるよう、リピーター確保に努めます。

その結果として、利用者数13万人（前期比102%）、売上150百万円（前期比104%）、純利益450万円（前期比103%）の達成を目指します。

（1）特色ある商品の提供

- ①丹後を実感できる商品開発
- ②物語性ある商品開発
- ③消費嗜好に適合する品揃え

（2）情報の集積と発信

- ①データに基づく顧客分析
- ②専門家指導に基づく技術力向上
- ③関係機関との情報交換

（3）企業の体力強化

- ①収益力の向上
- ②能力向上・人材確保
- ③機械化の推進

2 収支計画 2025年4月1日から2026年3月31日まで

単位：円

I 営業収益

売上高

1 飲食料売上高	53,600,000
2 土産物売上高	64,900,000
3 販売手数料売上	2,500,000
4 自販機売上高	1,200,000
5 使用料売上高	6,000,000
6 その他売上高	21,569,000
7 雑収売上高	<u>231,000</u>
	150,000,000

II 営業費用

1 売上原価

1 飲食料仕入高	22,000,000
2 土産物仕入高	<u>43,000,000</u>
売上総利益	65,000,000
2 販売費及び一般管理費	<u>85,800,000</u>
営業利益	△800,000

III 営業外収入

1 受託料	4,300,000
2 雑収入	<u>1,200,000</u>

IV 営業外費用

営業外利益	5,500,000
経常利益	4,700,000
法人税等	<u>200,000</u>
当期純利益	<u>4,500,000</u>

販売費及び一般管理費明細

単位：円

1 役員報酬	2,800,000
2 給与手当	17,550,000
3 賞与	1,910,000
4 雜給	21,150,000
5 法定福利費	5,020,000
6 福利厚生費	1,000,000
7 広告宣伝費	870,000
8 旅費交通費	1,550,000
9 研修費	430,000
10 車両費	100,000
11 通信費	370,000
12 水道光熱費	7,830,000
13 租税公課	100,000
14 消耗品費	1,720,000
15 修繕費	1,650,000
16 保険料	200,000
17 支払手数料	3,190,000
18 減価償却費	2,100,000
19 リース料	1,000,000
20 装備衛生費	4,070,000
21 燃料費	230,000
22 負担金	400,000
23 施設管理費	3,900,000
24 会議費	100,000
25 販売促進費	300,000
26 貸借料	200,000
27 外注費	700,000
28 雜費	160,000
29 消費税等	<u>5,200,000</u>
	85,800,000